



改宗して妙光寺の檀徒に

新潟市西蒲区
杉戸 功さん(52歳)

杉戸家は他宗派の寺の檀家で、功さんはその6代目です。昨年末に父・誠さんが78歳で亡くなりました。誠さんは婿養子でした。改宗はその誠さんの希望によるもので、葬儀も妙光寺に依頼しました。双方の寺も杉戸家も父の実家も、皆同じこの小さな集落にあります。宗派を変え寺を変えるには転居で行くなら別でしょうが、今の時代でも周囲へのそれなりの気遣いが求められます。寺と檀家の関係は江戸時代に幕府がとった政策にはじまります。明治に入り檀家制度は廃止され、昭和の戦後には新憲法で家制度も廃止。家の宗教を意味する檀家と言う言葉も公式には消えました。(妙光寺では現在「檀徒」と称しています)しかし制度は消えても言葉や意識は残り、いまでも例えば墓終いでお寺との縁を切る際、トラブルになることが多々あります。

それでも功さんは病床にある父の意向を汲みたいと、家族や親戚と相談し一年近くかけて慎重に進めました。墓がお寺でなく集落の共葬墓地にあったことも幸いしてか、先方のご住職からはすんなり同意をいただくことができました。

(2ページに続く)

妙光寺の光

復刊127号



春のお彼岸中日法要&第12回浄土講座

3月20日(水・祝)

午前 10時 安穩廟法要
10時半 春季彼岸法要…本堂
11時半 住職法話
12時 お斎(昼食)
13時 浄土講座『住み慣れた家で逝く』
廣澤利幸さん(ひろさわ内科医院 院長)
14時半 終了予定

お彼岸は春秋2回、陽気も良くなり昼夜の時間が同じになるこの日、心の偏りをなくして仏様の教えを修行しましょうという古くからの行事です。午後からは廣澤医師による浄土講座もあります。どうぞお出かけください。※詳細はチラシをご覧ください。

お寺の日『妙光寺開山会』

6月1日(土) 午前9時半開門

江戸時代から続く春の伝統行事「ご判さま」と、夏の「送り盆」(フェスティバル安穩)が一つになり、昨年から始まった『開山会』。法要、稚児行列、出店、子どもコーナーなど盛りだくさん。上野千鶴子さんをゲストにお迎えしてのトークコーナーには各方面より注目が集まっています。ご家族、お友達、皆さんでご参加ください。※詳細は開山会パンフレットをご覧ください。



お稚児さん募集

6月1日(土) 9時~12時

左記『開山会』にあわせ、法要に出仕していただくお稚児さんを募集します。古式ゆかしい衣裳を着けてのお練りなど、子どもたちにとっても貴重な体験となります。

5歳~7歳くらいまでの男女児10名

●参加費6千円

※詳細は開山会パンフレット裏面をごらんください。



月例信行会 毎月第1水曜日

4月3日(水) 5月1日(水) 6月5日(水) 7月3日(水)

午前9時~11時

お参り、法話、作務、コーヒータ임等があり、交流の輪も広がります。

●参加費 お志を各自賽銭箱にお願いします

予約申込み不用。当日直接お寺へお越し下さい。

月例ボランテラ 毎月15日

午前9時~11時半 午後1時~3時

堂内や境内の清掃等をお願いしています。都合の良い時間にお越し下さい。一日可能な方は昼食のご持参をお願いします。

あとがき

元旦の大地震では新潟県でも大きな被害があり、全県で1万5千棟(新潟市内は1万1千棟)の家屋が一部破損以上の被害を受けました。被災者の皆様にはお見舞い申し上げます。

さて前号から始めた「寺庭からagain」は好評です。天も人も厳しいことの多いこの頃、亡きなごさんの言葉に触れて元気を出していきましょう!ということで、今号にも掲載しました。新しい一年が「小さなこと」を積みかさねて良い年になりますように。

(新倉理恵子)

新潟市西蒲区 杉戸 功さん

37年間の海上勤務

父の誠さんは妙光寺の古くからの檀徒の生まれです。大勢のきょうだいと共に家業の漁師や農業を手伝いながら育ちました。普通高校を1年で中退して石川県七尾市の国立海員専門学校に学び、当時の大阪商船三井船舶に機関士として就職。主に写真のような大型タンカーに乗船して55歳の定年まで37年間、年に1ヶ月の休暇で戻る以外ずっと海上勤務でした。

妻の喜久枝さんとは保育園から高校までの同級生です。誠さんが休暇で帰省すると、幼なじみが20人余りでいつも喜久枝さんの家に集まりました。そのうちに25歳で結婚が決まり、誠さんは婿養子になりました。

3人の子どもに恵まれましたが、誠さんはいつも海の上です。当時の連絡手段は航空郵便が主で、高額な国際電話は日本の近くを航行中の短時間だけでした。喜久枝さんは「休暇を終えて駅で見送るとき、見えなくなるまで子どもたちがパパーってホームで電車を追いかけるんです。私も辛くて柱の陰でね…」

あるとき電車に乗り合わせた知り合いから「デッキで父ちゃんが泣いてたよ」と聞かされたこともあり「休暇中のあるとき、商船大学出身でないと昇進できない」と言っていて、大好きな酒を止めて猛勉強したんです。試験も受かって最後は機関長の次、機関部でトップの操機長を勤めました。部下の外国人船員からも慕われる、努力家で情に篤い人でした」と思い出を語ります。

定年後は家族と共に

定年後の誠さんは「もうどこにも行きたくない」と会社からの誘いを断り、生家の農作業を手伝っては兄と好きな酒を交わす日々でした。やがて元氣だった母親のハナさんが88歳で亡くなり、自宅に入りきれないほどの人が集まる葬儀になりました。

その後誠さんが暮っていた弟思いの兄金一さんも76歳で亡くなりました。金一さんは漁師でした。海の素潜りは人の3倍の時間潜り、畑仕事も怪力でこなし、酒量は誰にも負けず「怪物」と言われたほどです。冬の大雪のときにはスコッ

プを持って一番に妙光寺に駆けつける、何もないときでも顔を出す、そんなお寺思いの人でもありました。葬儀は妙光寺本堂で営みましたが、このころから誠さんが「俺の葬式も妙光寺がいいな」と遠慮がちに言うようになったそうです。

誠さんは3年ほど前から体調を崩して入院し、コロナ禍で2年間は面会ができませんでした。ようやく面会可能になったときには病状が進んで、十分な会話がでなくなっていました。功さんと喜久枝さんは、「私たち家族や実家を思い続けた



誠さんが主に乗船した巨大タンカー

誠さんの希望を叶えてあげたい。自分たちも妙光寺さんには誠さんの実家を通じてお稚児さんに出させてもらったりして馴染みが深い」と、宗派を変えお寺を妙光寺に移ることを考え始めたそうです。

慎重に進めた改宗

その後の経過を功さんは以下のように語ってくれました。「亡くなる前に段取りは付けたけれど、あまり早く進めると亡くなるのを待つかのようで嫌だなという思いで悩みました」「危篤です、と何回か病院に呼ばれるようになってようやく覚悟しました。両方のお寺の承諾を得てから仏壇を買い換えたんです。新しいお仏壇に開眼のお経を妙光寺のご前様に上げていただいた、その翌日に息を引き取りました。父が安心して喜んでくれたのだと思っています」

「葬儀後に親戚の一部から、昔からのお寺を変わるなんて聞いていなかった」と言われました。全ての親戚に事前の説明はできません。今は家族皆で喜んでいきます。新しい檀徒としてこれからよろしくお願いします」(院首記)

安 穩

小川良恵

ただ 只我等が心の善悪によろ見えたり

1月1日の大地震で被害を受けられた皆様には、心よりお見舞い申し上げます。

なお、妙光寺のある角田浜は、角田山の麓で地盤がしっかりしているため、

揺れは大きかったものの、被害は殆どありませんでした。

海拔も9メートルありますので、ご安心下さい。

浄土基金から

ただ、檀信徒の中には自宅に被害があつた方もおり、新年早々のやるせなさも感じております。この『妙の光』の中でご報告しておりますが、新潟市内でも被害の大きかった西区及び西蒲区の一部地域、また石川県在住の檀信徒には電話で安否確認を行いました。そのうち、被害の大きかった皆様には、妙光寺浄土基金の中から、お茶代程度ですがお見舞いをお渡しさせて頂きました。浄土基金とは、「この世を浄土にする」という法華経の教えを基に、境内整備や檀信徒の共助の為に皆様からお預かりしている浄財です。

今生きているこの世で幸せに

浄土とは仏様の世界のことです。昨年のNHK大河ドラマの主役である徳川家康は、「厭離穢土(えんりていど)浄土」と唱えていました。これは「穢れたこの世界を離れ、きよらかな仏様の世界に生まれ変わることを強く願う」との意味です。戦の絶えない時代にあつて、来世での救済は希望だったの

でしょう。日蓮聖人が法華経の教えを説かれた時代もまた、戦争や天災などで、人々、特に庶民の暮らしは辛いものでした。今生きている世界は辛いものだから、死後の幸せを願おうという考え方も広まっていました。そんな中で、日蓮聖人は、「今生きているこの世で幸せになりましょう」と説かれました。

助け合って生きていく

日蓮聖人のお手紙をまとめた『一生成仏抄』の中には、「衆生の心けがられば土もけがれ、心清ければ土も清しとて、浄土と云ひ穢土と云も土に二の隔なし。只我等が心の善悪によると見えたり」という言葉があります。「この世界を苦しみにばかりにしてしまふのか、仏様の住まう世界にするのかは私たちの心次第」というのです。今回の震災でも、正月休みを返上で被災地で救援活動をされる方が大勢いる一方、火事場泥棒などのニュースもありました。天災はいつ起こるとも分からないものです。が、困難に遭って諦めるのではなく、助け合って生きていくことが、仏様の願いです。



厄除け祈願祭 2月3日、4日

厄除け祈願祭は2月3、4日の2日間で70名の申込があり、両日とも祖師堂が一杯になりました。お加持のあと和やかに法話を聞き、御札を受取り、客殿に移動して“ぜんざい”で暖まりました。



角田浜新年お経会 2月17日

恒例の地元角田浜檀徒による新年のお経会。終了後の会費制の新年会ではご協力いただく今年の行事計画が伝えられ、賑やかに盛り上がりました。



春の息吹

暖冬の今年は春の訪れがことのほか早く、周辺の山野草の開花も例年より2週間は早まりそうと言われています。

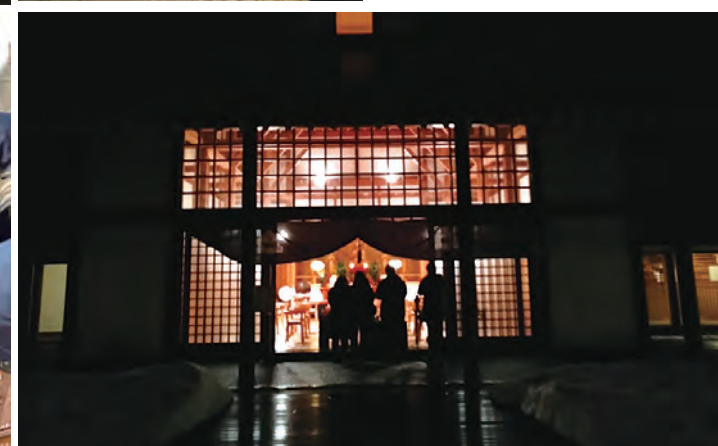


寺のうごき



◆除夜の鐘 2023年12月31日

大晦日はあいにくの雨降りでした。そのなか170名の方が家族連れ等々でお参りし、順番に除夜の鐘を撞きました。お楽しみ抽選会では様々な景品があり、笑い声が寒さを吹き飛ばしました。



◆年始参り 2024年1月1日

元旦の年始参りも除夜の鐘同様、若い世代を含めた一家そろってという方が多いです。以前はお屠蘇と称してお酒の振る舞いでしたが、今は代わりにお茶席でおもてなしです。担当する妙光寺お茶クラブの皆さんも、年代が幅広く頼もしい限りです



杉林に緑のじゅうたん育成中

本堂脇の杉林の中で、今コケが育っています。

今年の春からは、杉林全体にコケを広げていく計画です。

このコケ育成をご指導いただいている「苔博士」にお話をうかがいました。



佐藤征也先生
1944年、県内阿賀野市生まれ。新潟大学農学部で学び、デンカ（株）に就職。ウイルスを中心とする臨床化学研究に従事しつつ、富山医科薬科大学大学院で博士号を取得。定年退職後も様々なプロジェクトに関わりながら、現在は新潟薬科大学客員教授を務めている

Q 「コケ」を研究されたきっかけは何ですか？

佐藤 もともと私は庭いじりが趣味なんです。休みの日に自宅の庭でいろいろやつているうちに、庭にはどうもコケがよいと思うようになりました。ただそれは全くの趣味だったんです。

Q そもそも「専門の研究分野は？」

佐藤 最初は、新潟大学の農芸化学科でバイオテクノロジー（生物を実社会に生かす技術を開発する学問）を学びました。就職後は五泉市でウィルスを中心に研究しました。デンカ（株）はワクチンメーカーなので、医学がわか

らないと駄目だと大学院で医学博士号を取って、臨床化学の研究をしてきました。

Q ウイルスの研究は、感染症の時代にまさに必要とされていますね。

佐藤 コロナで有名になった鼻腔をぬぐう検査キットは、私たちが開発したんです。あの線が浮き出て陽性かどうかわかる器具です。最初はできるわけがないと言われました。なにしろウィルスは非常に小さいので、正確にとらえられないのではないかとね。でもそれは何とか実現して、インフルエンザ検査など世界中で活躍する技術になり

ました。

Q コケは趣味でお仕事とは別だったんですね。

佐藤 ところが1990年代に京都大学の故大山莞爾先生が、ゼミコケの中に体にいい成分が含まれているという画期的な論文を発表されたんです。そこから私もコケの研究に打ち込むようになりました。

Q 趣味と仕事が一致してしまったわけですね。

佐藤 そうなんです。その後仕事でカナダに行ったとき、カナダの製薬会社で植物からワクチンを作る技術に取り

組んでいるのを知ったんです。「植物の力」はすごいと思ひまして、調べていくとコケもウイルスを吸収するということがわかりました。

Q ではコケはコロナウイルスも吸収するんですか？

佐藤 インフルエンザウイルスもコロナウイルスも吸収します。ただ発表の仕方が問題で、妙な言い方をすると大騒ぎになって「部屋の中にコケを置けば感染しない！」みたいなおかしなこ

整をする力もあるようなんです。だから私は「コケは世界を救う！」とも言っています。

Q それでは「コケ」のパワーを事業化しておられるとか？

佐藤 実は息子が*（株）グリーンズグリーンという会社を9年前に起業しまして、私も協力しています。私が開発して特許を持っている「スナゴケシート」を使って世界を緑化しようという壮大な計画の会社です。

Q 「スナゴケシート」とはどのようなものですか？

佐藤 日本にはコケが3千種類くらいあるんです。コケという「日陰でジメジメ」というイメージだけれど、乾燥や日向を好む種類もあるんですよ。そもそもコケは少しくらい乾燥しても平気だし、スナゴケはほぼ乾燥状態でも大丈夫なんです。北海道から沖縄まで、どこでも生育します。それを防草シートと組み合わせたものが「スナゴケシート」で、丸めて運べてカット

できて雑草も生えず管理も楽です。現在、高速道路脇や鉄道線路脇の緑地化に使われ始めています。土がいらないので海外にも輸出できます。耕作放棄地を利用して「スナゴケシート」

のためのコケ栽培に取り組んでいる人たちもいます。それで炭酸ガスも吸収するんですから、持続可能な世界を作るために非常に有望な事業だと思っています。

*（株）グリーンズグリーンの詳細はHPをご覧ください。コケを使ったすてきなアート作品も紹介されています。今年1月BS朝日放送の番組でも紹介されました。

Q 院首さまと佐藤先生は、どこで知り合われたんですか？

佐藤 一昨年、新潟市の砂丘館で「苔を楽しむ」というセミナーがあつて、私が講師で呼ばれたんです。そこに院首さまが参加していて、苔玉をいっしょに作ったりしました。

Q そこから杉林にコケを植えるという話になったんですね。

佐藤 昨年（2023年）の夏、まず境内の一角のコケを剥ぎ取りました。コケの育成は、その土地にあるコケを使った方がうまくいきます。集めたコケをほぐして洗って（雑草の種がついていたりしますから）杉林の決めた区画に蒔いたんです。その後は何もせず放置です。昨年の11月に覗いてみたら、非常にいい感じに成長していました。

大成功です。妙光寺の境内は日照も風の吹き方もちょうどよくてコケにはとても適した環境ですね。

Q 根が付いたんですね？

佐藤 いや根といってもコケは「仮根」なので、養分はコケ全体から吸収します。今はイノシシ除けでカバーをしています。今はイノシシ除けでカバーをしています。春にはこれを外したいですね。さらに境内の他の場所から集めて同様にして撒いて広げて行く予定です。

Q 林全体がコケでいっぱいになるのは、いつごろですか？

佐藤 基本は1年で4倍になります。倍々で増やせるので、2〜3年で緑のじゅうたんが広がることでしょう。

Q 踏まないように気をつけなくちゃいけませんね。

佐藤 真上から踏むのは構いません。麦と同じように強くなるので、踏んだ方がいっくらいいです。こする感じで踏むとはがれてしまうので、気を付けてくださいね。

緑のじゅうたん、楽しみにしています。ありがとうございます。

（編集・新倉理恵子）

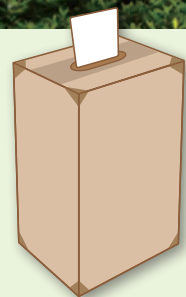


写真はイメージです

とになりかねないので、もっとしっかりした論文の形にしたいと思っています。感染を防ぐには二つの方法ではダメなんです。複数の方法を組み合わせることが必要だと強調しておきたいですね。

Q 植物ですから二酸化炭素（炭酸ガス）も吸収しますよね？

佐藤 もちろん光合成をしますので炭酸ガスも吸収します。それから消臭効果もありますし、部屋の湿度調



Q なぜ安穩会員（信徒）は葬儀をして頂けないのでしょうか？

安穩会員は「信徒」

妙光寺では、安穩廟契約者つまり安穩会員は「信徒」とし、以前からのいわゆる檀家を「檀徒」としています。また古くから日蓮宗の他のお寺の檀徒で、妙光寺と信仰上の縁を持つ方も多く、この方たちも妙光寺の「信徒」です。両方を合わせて「檀信徒」と呼んでいます。

葬儀は「檀徒」のみお受けしています

安穩廟は宗派を問わず使って頂けるお墓ですが、葬儀は「檀徒」のみという規約にしています。理由是您自身が納得の上で妙光寺の「檀徒」を選んでいただくこと、これを一番大切にしたいからです。そのために年会費も違います。その意思を明確にしておくことが、もしものときご自身は無論、遺族や周囲の安

心にも繋がると考えています。

安穩会員も「檀徒」になれます

当然ですが、お申し出により誰でもいつでも「檀徒」になることは出来ます。同時に「檀徒」をやめることも自由です。いわゆる檀家ではなく「檀徒」としているのは、あくまでも個人の意志を最大限に尊重したいからです。ご両親が「檀徒」として葬儀を行っても、後を継いだお子さんが、例えば「自分はキリスト教徒だからお墓は継ぎますが、安穩会員に戻ります」ということも出来ます。

安穩会員（信徒）も法事はお受けします

なお、四十九日や一周忌、三回忌等の法事は、「檀徒」の方だけでなく安穩会員（信徒）の方も、いつでもお受けしています。ご相談ください。

誌上法話 小川良恵

自己犠牲—自らが灯火となる

薬王菩薩本事品第二十三

本事とは前世（過去世）の因縁や物語を意味します。この章では、薬王菩薩が如何なる修行を経て、私たちのいる娑婆世界に姿を現したかが説かれています。

焼身供養

薬王菩薩は、はるか昔、一切衆生喜見菩薩……「一目会えば誰しもが好きになる姿を持つ」という名で日月浄明徳如来に仕えていました。日月浄明徳如来は完璧な悟りに達しており、治める世界は、大変に美しく、誰も苦しむ者のいない場所だったといえます。一切衆生喜見菩薩（のちの薬王菩薩）は、そこで1万2千年にも及ぶ修行を終えて、現一切色身三昧という力を得ることが出来ました。これは、相手の望む姿に自由自在に変身をして、その人を導くことが出来る力を意味しますが、喜見菩薩はこの力を得た

ことで満足はしませんでした。得た力をもってしても、日月浄明徳如来と法華経を供養するには足りないと考え、自らの身に香油を塗りその身を焼いて自らが灯火となり、世界を照らす光明となりました。つまりは、焼身供養です。

その灯火は今も私たちを導く

愛する我が身を供養することは、最も尊い布施である……現代の価値観からすると非常に驚いてしまう物語です。灯火は1200年の間燃え続け、身体は跡形もなくなりました。しかし、尊い供養を成し遂げた喜見菩薩は、同じ世界に生まれ変わり、再び日月浄明徳如来にまみえることが出来ました。そして、これからも仕えて行きたいと望まれますが、如来は自身がまもなく涅槃に入ることと告げ、後の布教を託されました。また、遺骨は皆に分け与えて、供養のための塔をあちこちに

建てるようにと告げられました。如来が完全な涅槃に入るのを目の当たりにし、喜見菩薩は大変に嘆き悲しみますが、遺言通りに、弟子たちと共に供養を行います。そして、前世と同じように自分の両腕を焼いて火を灯し、世界を明るく照らしました。その炎が続く7万2千年間、喜見菩薩は人々を導き続けたといえます。そして、一切衆生喜見菩薩は今は薬王菩薩として釈迦如来に仕え、私たちを導いて下さっているのです。

法華経を信じるのが私たちの修行

とはいえ、凡夫である我々にまで、必ずしも焼身供養が推奨されているわけではありません。喜見菩薩がその身を焼いてまで、供養した法華経をいちずに信じ続けることもまた、私たちに出来る最高の修行であることが、この章の教えであると考えられるでしょう。

院首夫人・小川なぎささんは、2年8カ月の胃がん闘病の後、2020年10月15日行年61歳で亡くなりました。『妙の光』誌上には人気シリーズ「寺庭から」を連載し、その温かい人柄は多くの檀信徒に慕われてきました。編集部の方のセレクトは、1999年3月第46号から、39歳のなぎささんの言葉です。

寺庭から again

1999年3月復刊第46号



自立宣言?!

小川なぎさ

一日の仕事がきちんと終わって、風呂あがりに顔の手入れをして、子供らの汚した部屋もさっとかたずけた。たったこれだけのことで気持ち良く夜を迎えられる。蒲団にくるまりしばらく本をよむひとときはしあわせです。

この冬は、いつも寝ていた部屋から一人で脱出しました。住職は真っ暗な部屋でないと眠れないたちで、私が蒲団に入る時間にはすでに眠りかけているので、本を読むためにあかりをつけて起こすのはためらわれます。一方で私は駅のベンチでも眠れるくらいの神

経なので、子供が泣こうが、明るかろうが平気ですが、眠る前にならず5分でも本を読みたい。

だからなるべく住職と寝る時間をあわせるか、先に寝てしまうか、あれこれ努力をしていました。最近はそのような些細な努力がわずらわしくなっていました。

もうしなくて良い我慢はしなくても何とかなる年齢になったと思います。この別居?をきっかけに、私は今年は自立しま〜す。と宣言し、自分の全ての時間を夫と子供にささげてきた生活のリストラを考えています。

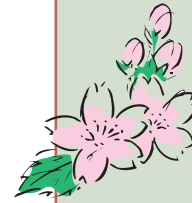
いつのまにか、そしてあっという間に子供は中学生になってしまいました。住職も40半ばになり、仕事も忙しくなっていることもあって、油っ気も抜けてあまり私にうるさいことを言わなくなりました。家族の一人ひとりが自分の道を歩み始めたことに、ほっとしています。

冬のあいだこれからの自分のことを考えていたら、楽しくてしかたがなかった。だいそれたことは出来ないけれど、「なにかしよう」と気分を前向きに変えただけでこんなに明るい気分になれるなんて、と思います。

お寺での生活が中心となることはもちろん、1日30品目を食べることに挑戦するとか、体重を減らして健康になるとか、小さなことです。

そして、おこがましいかもしれませんが、皆さんの役に立てることが出来たらと思っています。私で役に立つならばお手伝いをさせてください。困ったことがあったら電話をください。

真夜中、時折全ての音が止まっているかのような深い静けさのなかに、聞こえるフクロウの鳴き声。この声が聞こえる時は、明日は良い天気になるそうです。



角田山妙光寺インフォメーション



能登半島地震被害

1月1日夕刻、大きな揺れは過去に経験のないものでした。ニュース速報では3mの津波が既に到達した模様とありましたが、境内は海拔9mなので心配はなく避難もしませんでした。お年始客の皆さんが帰られた後でしたからその点でも良かったです。被害は山門脇の石塔頭部の落下、本堂の古い小仏像が倒れて損壊した程度です。

後日、被害が大きいと報道された県外を含めた地域の檀信徒宅396軒に、電話をかけて可否確認をさせていただきました。結果18軒に修繕が必要な損壊があり、浄土基金からささやかなお見舞をさせていただきました。



落下した山門前石塔の頭部

新潟市内の一部日蓮宗寺院でも本堂内部の損壊があり、能登半島地域では多くの民家とともに寺院も甚大な被害を受けました。教団の宗務所経由で義援金の拠出に協力する予定です。改めて被災された方々にお見舞い申し上げます。

固定電話廃止等の変更はお知らせください

今回の地震被害調査で電話の通じないお宅がかなりあり、直接訪問しました。その大半が地震前から固定電話を廃して、携帯電話のみにされた方でした。転居は郵便物の返送でわかりますが、電話の変更は把握できません。是非ともお知らせくださるようお願いいたします。

山側墓地の改葬と廃止に向けて

山側墓地が崩落して危険なため、関係者には昨年墓石の移転にご協力いただきました。残った所謂無縁墓石の改葬手続きが進行中で、4月10日に官報の告示期間が満了します。法律上はこれで改葬が可能ですが、判明する範囲内での関係者

への直接確認を進めています。

どこかで目途を付けて次の段階となる遺骨の改葬、墓石の撤去、コンクリート残滓の処分、整地、墓地の廃止と地目変更を年内に予定しています。

イノシシ対策続報

昨年末の夜9時頃、境内で体重100kgは越えると思われる大きなイノシシと遭遇しました。こちらは自動車内だったので事なきを得たのですが、悠然と歩く

姿に背筋が寒くなる思いでした。

境内の最小限の部分フェンスで囲う案を業者と検討中ですが、同時に獣害対策コンサルタントから境内を見て助言を頂きました。「イノシシにとって好ましい周辺環境なので、今後個体数が増えることはあつても減ることはない。行政がいう罠による捕獲は限定的で、フェンスで囲うのが最も効果的。夜行性ではなく日中に活動するが、人間が怖いので早朝から夕方からの時間帯に注意が必要で日中なら余り心配はない」そうです。お墓参り等の時間帯にご留意ください。

「任意後見」受任のための準備

以前から「任意後見」の問合せがあります。この度妙光寺が窓口で「NPO法人身寄りなし問題研究会」が新たに設立する一般社団法人「生支縁」を受け皿として、協働による任意後見の受任体制が進んでいます。慎重に進めており今少し時間がかかりますが、ご相談はお受けできる状態です。何なりとお問い合わせください。今後浄土講座等で相談会も検討しています。

写真はイメージです

